

東京 2020 大会に向けた都立公園における会場整備について

1. 東京 2020 大会に向けた会場整備に伴って都立公園で整備されたこと

平成 25 年 9 月 IOC 総会で 2020 年オリンピック・パラリンピック競技大会の開催都市が東京に決定された。建設局では 4 公園（葛西臨海公園（隣接都有地に会場整備）、夢の島公園、潮風公園、武蔵野の森公園）を対象として会場整備を行ってきた。令和元年度末までの 6 年間の整備内容は、大きく下記の 3 つに分類される。

- ① オリンピック・パラリンピック準備局からの執行委任。
新規恒久施設の整備（写真-1、写真-2）
- ② 公園施設の改修（4 公園での園地改修、サイン多言語化改修、建築改修、照明設備等の改修、トイレ改修、2 公園の橋梁整備、3 公園での防災設備工事）
- ③ 護岸改修（潮風公園、夢の島公園）

この発表においては、上記の整備について全体を俯瞰的に説明する。



写真-1 カヌー・スラロームセンター



写真-2 夢の島公園アーチェリー場

2. 会場とされた 4 公園の整備概要と課題

- ① 新規恒久施設（カヌー・スラロームセンター・夢の島公園アーチェリー場）

カヌー・スラロームセンターは国内初の人工会場であり、参考となる類似施設が国内にない。ICF（国際カヌー連盟）の大会認証が必要な特殊な施設として設計・施工が行われた。

葛西臨海公園（カヌー・スラロームセンター）・夢の島公園（夢の島公園アーチェリー場）ともに埋立地であり、軟弱地盤層が確認されていた。このため、場所、施設内容に応じて経済的な地盤対策を選択して実施した。



写真-3 夢の島公園口広場（新設）

② 公園施設の改修

今回対象となった都立公園は古い場所では開園から46年、新しい公園で18年が経過していた。公共施設のバリアフリー対応に関する各種条例・ガイドラインは随時更新されており、既存不適格な状態にある公園施設もあった。また、国内外からの多様な来園者を迎え入れるために園内サインの多言語表記が必要であった。4公園において、これらの公園施設の更新を行った。

また、葛西・夢の島・武蔵野の森の3公園を対象にH28防災公園基本計画に基づき防災設備を設けた。

- 園地改修（園路バリアフリー対応、広場整備、サイン多言語化改修、スロープ、階段、ベンチ改修等）（写真-3、写真-4）
- 橋梁整備（公園橋架替え）（写真-5）
- 便所改修（バリアフリー対応、防災機能強化）
- 防災設備工事（自家発電設備、災害対応照明）

③ 護岸改修（潮風公園、夢の島公園）（写真-6）

潮風公園、夢の島公園の護岸は完成から50年近くが経過しており、鋼矢板の一部腐食が確認されていた。現行の耐震基準を適合させるため、改修を実施した。令和2年度時点で、潮風公園（南地区）夢の島公園（東地区マリーナ前）については大会後の施工予定となっている。

3. 都立公園での会場整備を終えて

2020大会に向けた6年間の会場整備により、下記の成果が得られた。

- ① 新規恒久施設によって、より良い競技環境のもとでアスリートの強化が可能となった。
- ② 公園施設の改修により、基準に則った施設への改修、防災機能の強化が進んだ。
- ③ 護岸改修は2020大会を契機に、半世紀に一度の施設更新を行っている。

大会以降、公園には以下の課題が残されることになる。

- 大会後に建設局によって引き続き行われる工事の着実な執行。潮風公園（園地改修、護岸）・夢の島公園（護岸）
- 改修整備された4公園の施設の維持・更新。
- 4公園での組織委員会による工事占用物件の撤去復旧の履行確認。

2020大会は1年の延期となったが、残された遺産（レガシー）を生かし、引き続き都立公園の整備に邁進して行きたい。



写真-4 UDに考慮したベンチ改修

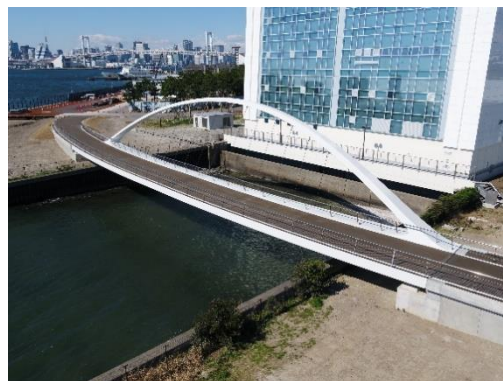


写真-5 潮風橋



写真-6 護岸改修（夢の島公園）